

(様式6-A) A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

高橋 伸弥 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Assessment of therapeutic effects of statin on cardiac sympathetic nerve activity after reperfusion therapy in patients with first ST-segment elevation myocardial infarction and normal low-density lipoprotein cholesterol (LDLコレステロール正常範囲内の初発ST上昇型急性心筋梗塞再灌流患者におけるスタチンの心交感神経系への治療効果に関する検討)

Journal of Nuclear Cardiology (in press)

論文の要旨及び判定理由

急性心筋梗塞の死亡率はカテーテル治療の進歩により改善を得たが、左室リモデリングが進行した心不全症例は長期予後が悪いことが知られている。HMG-CoA還元酵素阻害薬であるスタチンはLDLコレステロール(以下LDL-C)を下げることで虚血性心疾患のイベントリスクを低下させるだけでなく、多面的作用によって左室リモデリングの抑制や心交感神経活性の亢進を抑制する効果があることが報告されている。本研究では¹²³I-MIBG心筋シンチグラフィを用いて心交感神経活性への効果を検討した。初発急性心筋梗塞に対して緊急で再灌流治療を実施し、且つ発症3週間後に¹²³I-MIBG心筋シンチグラフィを実施した症例を対象とした。計213症例の中でLDL-Cが120mg/dl未満と正常範囲内かつスタチンを導入されなかった30症例をNon-statin群と定義し、プロペンシティスコアマッチングにて選択した30症例(LDL-Cが120mg/dlかつスタチン導入)をStatin群と定義した。Statin群及びNon-statin群の2群間において患者背景に有意差は認めなかった。Lipid Parameters(TG、TC、HDL-C、LDL-C)、経胸壁心エコー検査における左室パラメーター(収縮期/拡張期末期径、左室駆出率)、Plasma procollagen type III amino terminal peptideに関しては、入院時と発症3週間後の変化量はStatin群の方が有意に小さかった。¹²³I-MIBG心筋シンチグラフィのパラメーター(TDS、H/M、WR)に関しても有意差を認め、Statin群の方が良好な値であった。以上よりスタチンの左室リモデリング及び心交感神経活性の亢進に対する抑制効果を明らかにしたことから博士(医学)の学位に値するものと判定した。

(審査 令和2年1月30日)

審査委員

主査 群馬大学教授 (医学系研究科)
臨床検査医学分野担任

村上 正巳 印

副査 群馬大学教授 (医学系研究科)
腎臓・リウマチ内科学分野担任

廣村 桂樹 印

副査 群馬大学教授 (医学系研究科)
脳神経内科学分野担任

池田 佳生 印

参考論文

なし

（様式6， 2頁目）

最終試験の結果の要旨

スタチンの左室リモデリング抑制作用のメカニズム及び急性心筋梗塞患者のスタチンの有用性について試問し満足すべき解答を得た。

（試験年月日）令和 2年 1月 30日

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）
循環器内科学分野担任

倉林 正彦 印

群馬大学教授（医学系研究科）
臨床検査医学分野担任

村上 正巳 印

試験科目

主専攻分野 循環器内科学 A

副専攻分野 臨床検査医学学 A